

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子どもの育成	①学力向上「よく見る・よく聞く・よく考える」「けじめをつける 時・場所・場合」 ②豊かな心とコミュニケーション力の育成「よく見る・よく聞く・よく考える」 ③生活指導の徹底「けじめをつける 時・場所・場合」「あいさつ・返事・あとしまつ」「立腰による心の落ち着き」 ④保護者・地域等との連携を推進する。

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
①学力向上「よく見る・よく聞く・よく考える」「けじめをつける 時・場所・場合」							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	・授業研究の推進をしているか。 ・教育相談及び特別支援教育に関する知識と判断力を身につけているか。	・全職員が研究授業を1回以上実施し、事前、事後の研究の充実を図る。 ・計画的な研修によって、教育相談の方法や就学支援のあり方を理解する。	・協力して研究授業の指導案の検討を行う。算数科の授業研究会を実施し、優れた指導方法の共有を図る。 ・事例研修やスクールカウンセラーによる講話を元に本校児童への対応等を協議する。	A	・児童の学力向上を図るために、実態を踏まえながら、全員で、各グループで指導の改善点を協議した。それをもとに、全教員が授業を実践し研修を深めた。 ・夏休みにSCの講話を聴いたり、Q-Uの研修を行った。そして、毎月、生活指導協議会で気になる児童について情報交換を行い、共通理解をしてから児童の指導に当たった。	・今年度の研究を校内研究で振り返り、効果があった点や改善点を見出して来年度につなぐ。また、12月テストの分析を行い、その結果も指導と研究に反映させる。 ・年度当初に教育相談と生徒指導の研修を行い、学んだことを早く指導に活かす。そして、積極的にSCと担任が情報交換をする場を設ける。
教育活動	●学力の向上	・学習意欲を向上させ、自分の考えを持たせる授業づくりができているか。 ・授業規律の徹底をしているか。 ・学年で身につけさせたい力と方策の共通理解できているか。	・「なかよし学習」(ひとりでタイム・ともだちタイム・みんなでタイム・もう一度ひとりでタイム)の充実を図る。 ・学習用具の準備・チャイムの合図で授業開始・授業終了時のふりかえり発言をさせる。 ・校内研での取り組みを生かした日々の授業展開の実践を図る。	・グループワーク(話し合い活動)の進め方を4つの型で示し司会が進め方のカードを参考に進行する。 ・研修会やチェックシート利用などで共通理解を図り、全学年授業の流れを徹底する。 ・唐津市の学力向上推進校として、全職員が研究授業を公開し、その授業研究会を通して、授業づくりのさらなる充実を目指す。	B	・多教科において「なかよし学習」を取り入れることができている。 ・司会カードを使って、全学年話し合い活動を進めることができている。 ・全職員が研究授業を公開して、校内研で話し合いながら、取り組んでいる。 ・理解を深め、学力を向上させるために、「もう一度一人でタイム」を取り入れてきた。45分のタイムマネジメントについて研究を深めてきたものの、十分ではなく、今後の課題でもある。	・各教科、各学年で身につけさせたい力の系統性を校内研で話題に取り上げ、現状を把握し共通理解する。 ・学年で身につけさせたい力について、教科横断的な方策などを考えながら、指導方法の改善をはかる。
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の推進	・教職員のICT活用能力は向上しているか。	・「全員が使う、全員が使える」を目指し、全職員がICTを有効に活用した授業に積極的に取り組む。	・講師を招聘し、ICTの効果的な活用法等について研修を深め、実践していく。 ・電子黒板や書画カメラ、デジタルカメラの活用を推進する。	B	・講師を招いての研修を行わなかったが、本校職員が「書画カメラ」「パワーポイント」「ワード」等の研修を行った。研修したことを授業や仕事に活かし、個々の技能を高めることができた。教室で実践したことで、児童の学習意欲を引き出した。	・職員のニーズに応じた研修や職員にとって有効な研修を企画、実施するだけではなく、その後も研修内容についてのバックアップをしている。 ・職員が使用したデジタル教材等を共有フォルダに入れてもらい、それを必要に応じて授業の中で使う。
②豊かな心とコミュニケーション力の育成「よく見る・よく聞く・よく考える」							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●道徳の授業を中心とした心の教育	・温かい学校・学級づくりができているか。 ・学校や社会の決まりやマナーを守っているか。	道徳の授業の充実と支持的風土の学級経営による人権意識や自己肯定感、規範意識の涵養。	・道徳の授業の充実やQ-Uアンケートの効果的な活用等を通して、よりよい学校・学級づくりに努める。 ・講話や毎週の道徳の授業を通して、人権意識を高める。 ・年間指導計画をもとに授業の実践と、評価を進める。	B	・教科になったことで、内容や評価について職員間で共通理解することができた。 ・各学年の実践(資料やノートの活用等)や評価については、まだ課題が残る。	・年間カリキュラムの見直しやノートの活用の仕方、評価やその記述の仕方について、更に共通理解を図り、系統的な体制づくりを行う。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめの早期発見・早期対応に向けた体制作りができているか。	・いじめに対応するための組織や連絡体制、対応策を確立し、有効に活用する。	・毎月の「なかよしアンケート」で、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・日々の児童の様子をよく観察し、アンケートに表れていない面についても、気になることの早期発見・早期対応に努めるようにする。 ・毎月の生活指導協議会で対応の仕方を協議し、組織的な対応を行う。	A	・毎月のなかよしアンケートや生活指導協議会を通して、児童の様子を共通理解し、全職員で指導に当たることができた。 ・SCの助言によって、児童に適切な指導をすることができた。	・情報交換を密に行い、気になる児童への対応を更に迅速に行い、早期解決を図る。 ・なかよしアンケートを有効に活用し、児童同士が良好な人間関係を築くことができるように助言を行う。
教育活動	○特別活動による自主的実践的態度・仲間と自分を大切にする態度の育成	・宿泊体験、米作り体験などでお世話になっている地域、保護者の方々に感謝することができるか。 ・自分にできることを見つけ、協力して活動できるか。	・体験活動・ボランティア活動とおとし、自分や周りの人々を大切にする態度の育成。 ・「気づき⇒考え⇒実行する」「よく見る・よく聞く・よく考える」を合い言葉に、真剣に取り組む態度を育てる。	・事前指導の折にも感謝の気持ちを忘れず、謙虚な心で取り組むことを指導する。 ・活動の目当てを意識させ、活動の後には振り返りの場を設けて、頑張りや協力の視点で発表させたり、まとめさせたりする。	A	・総合的な学習や学校行事の中で多くの講師を招いた。その中で児童は、体験したり、様々な感想を持った。そして、感動したことや学んだことを態度や手紙で表現することができた。修学旅行で被爆体験を話された講師さんは、わざわざ手紙を送ってこられ、6年生の態度をほめてくださった。	・さらなる地域人材の発掘を行って講師の依頼をして本校に招き、児童と地域の方々の交流を盛んにする。また、児童に、校外学習を通して打上校区の良さを発見させたり地域の方と触れ合う機会を作ったりしていく。 ・学習したこと新聞にまとめさせたり、手紙を書かせたりしてアウトプットをさせる。
③生活指導の徹底「けじめをつける 時・場所・場合」「あいさつ・返事・あとしまつ」「立腰による心の落ち着き」							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○危機管理	・子どもの安全確保のための危機管理体制は整っているか。	・学校評価の保護者用アンケート項目「学校は安全対策ができているか」の達成率が95%以上にする。	・避難訓練の実施や安全指導を徹底する。危機管理上の課題を明確にするための訓練と位置づけ、危機管理マニュアルの実践化に取り組む。 ・様々な便りやはなまる連絡帳を通して、危機管理の意識をさらに高める。	A	・学校評価アンケート項目「学校は安全対策ができているか」の達成率が99%を超えていて、目標を達成できた。	今年度以上に、天災防災対策や原子力防災対策について、保護者との共通理解を図り、子ども達をいかに安全に避難させるか、保護者へ引き渡すかを明確にし、その訓練を行う。
教育活動	●健康・体づくり	・体力向上を意識した取り組みができているか。	・学校評価の児童用アンケート項目「元気に外遊びや体力づくりができる」の達成率が90%以上にする。	・体育行事や体育の授業の中で、児童一人ひとりがめあてを持って体力向上に取り組むことができるようにする。 ・外遊びを日常的に促す。 ・縄跳び月間や持久走月間などの全校的な取り組みを充実させる。 ・立腰教育の推進により落ち着いた心を育てる。	B	・持久走月間やなわとび月間などの全校的な取り組みには積極的に参加できている。 ・立腰教育により落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組めるようになってきた。 ・体育行事や体育の学習の際に児童自身がめあてを持って取り組むことができていた。 ・児童用アンケート項目「元気に外遊びや体力づくりができる」の達成率が90%に届かなかった。	・外遊びの奨励にとどめず、もっと全校的に外遊びに取り組む手立て(ブロックあそびの見直しなど)を考える。 ・日常的な体力づくりの観点から徒歩での登下校の啓発を行う。 ・食育についても内容を検討し、取り組みを行う。
教 育 活	○人間関係の基礎づくり	・あいさつ運動の推進しているか。	・学校評価の児童用アンケート項目「気持ちのよいあいさつができる」の達成率が90%以上にする。 ・あいさつレベルの向上をめざし、レベル5を目標にする。	・あいさつのできている子供を奨励し、全児童に広める。 ・あいさつの状況を生活指導協議会などで確認し指導する。	A	・児童用アンケート項目「元気にあいさつをしている」の達成率は90%で、目標が達成できた。	・あいさつレベル5「誰にでもあいさつをしたり、あいさつを返したりしよう」を意識させて、あいさつの大切さと呼びかける。
教育活動	○生活指導協議会を生かした指導生活規律の徹底	・きまりを守り、他者を大切にしているか。 ・学校評価の児童用アンケート項目「きまりや月別目標を守ることができる」の達成率が90%以上にする。	・当たり前のことが当たり前できるように全職員で指導を徹底する。 ・学校評価の児童用アンケート項目「きまりや月別目標を守ることができる」の達成率が90%以上にする。	・毎月の生活指導協議会や普段の職員室での会話等の中で、児童の生活態度について確認をし、全職員で指導の徹底を図る。 ・全職員の共通理解の元、指導の徹底をはかるとともに、職員が見本となって行動する。	B	・朝の会や帰りの会などで、生活目標についてふり返りを行うことで、意識を持続して取り組むことができた。 ・生活指導協議会や職員室での会話等の中で、児童の生活態度について確認し、全職員で指導することができた。	・生活リズム点検を行うことで、学校だけでなく家庭での生活規律も守ることについて保護者への啓発を進める。 ・生活リズム点検表の結果を有効に活用し、子ども達の意識を高める。
④保護者・地域等との連携を推進する。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等を連携し効率化を促進しているか。 ・規範意識を高めているか。	・学校運営を組織的に、業務の効率化と分散化を図ることによって、質の高い業務内容を目指し、なおかつ個人負担を軽減する。 ・明るい職員室作りを目指し、美化や環境を整える。	・企画委員会を中心として、行事、企画を精選し、学年や教科などが組織的に活動しやすい環境を作る。 ・明るい挨拶と、感謝の言葉が飛び交う職員室になるように働きかける。	B	・学校行事や授業は、全員で協力して円滑に進めることができた。しかし、個人負担が増えることもあった。 ・職員が相互に気遣い、自然に助け合う雰囲気であった。	・人的な制限があるが、行事や業務の精選を行い、業務の分担を見直す必要がある。 ・長期休業中には、レクリエーションや昼食会を設け、職員がコミュニケーションを深める機会を作る。
学校運営	○保護者・地域との連携	・地域と共に取り組む学校づくりができているか。	・地域や保護者が積極的に参加する教育活動を計画する。	・保護者や地域の方との協力体制を維持しながら、教育活動を進める。	B	・学級・学校行事への参加協力は素晴らしい。 ・保護者の育友会総会や教育講演会への参加率が低い。	保護者同士の声かけによって、総会を盛り上げる努力をしてみよう。 保護者が興味を持っていたらできるだけような講師を選び、参加率を上げる。
学校運営	○4校連携の推進	・具体的な取り組みについて共通理解し、実践しているか。	・海青中校区4校の校長会・研究主任会を中心に、全職員で、9年間を見通した「目指す児童・生徒像」の育成に取り組む。	・学年に応じた家庭学習の時間の確保について、家庭との連携をより深めながら全学級で取り組む。 ・他校への授業参観の機会を作る。 ・各部の取り組みの具体化を図る。	A	・海青中学校校区4校の連絡協議会では、授業参観を通して交流を積極的に行った。その中で、児童生徒の様子や各校の指導法を情報交換することができた。また、4校の小小連携の取り組みの確認もできた。	・小中連携事業(クラブ活動)を推進し、中1ギャップをなくしたり、児童と生徒の仲を深めたりしていく。 ・4校で共通した研究や指導を行っていく。
4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組							
・保護者アンケートの評価と、児童アンケートの評価は、昨年より上がったものが多かった。しかし、保護者と児童で評価の差が大きい項目もいくつか見られた。来年度は、それらの課題がいくらかでも解消できるように、全職員が学校経営方針を十分に具現化し、より一丸となって学校教育目標の実現に取り組んでいきたい。							

●は共通評価項目、○は独自評価項目